

秋田の土地改良



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

みどり
水土里ネット秋田

目次	本会創立50周年記念式典を開催	2
	平成20年度土地改良関係団体役員講習会	7
	平成20年度21創造運動全国セミナー	9
	平成21年度農業農村整備事業予算概算要求の重点事項	10
	平成20年度秋田県農業集落排水連絡協議会研修会が開催される	13
	技術力向上に向けての取り組み(業務成果発表会・内部研修)	14
	各種研修会の開催(報告)・連合会日誌	15
	水土里ネット秋田の動向・会員だより	16
	農業農村整備フェア	17
	秋の叙勲(土地改良事業関係)	18
支部からの水土里通信(由利支部)	19	
インフォメーション	20	

◆発行所/秋田県土地改良事業団体連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号
TEL .018-888-2750(代) FAX .018-888-2834 <http://homepage2.nifty.com/akidoren/>



「厳冬の芹摘み」美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品

本会創立50周年記念式典を開催

創立50周年と全国土地改良大会の開催を新たな出発点に

11月11日(火)、本会の「創立50周年記念式典・祝賀会」が秋田市（秋田キャッスルホテル）で開催された。

記念式典には、佐藤文一副知事をはじめ、森多可志東北農政局次長、大野忠右エ門県会議長、新井安廣全国水土里ネット専務理事など多数の来賓を迎え、本会会員や本会OB、関係者など約430名が出席。高畑会長が半世紀の農業情勢を振り返りながら、これからの本会の役割に触れ、「この度の創立50周年と全国土地改良大会の開催を新たな出発点とし、『水』『土』『里』豊かな秋田の実現を目指し、会員並びに関係機関との連携を図りながら、更なる努力をして行きたい」とあいさつした。（挨拶要旨を別掲）

佐藤副知事などの来賓祝辞に続いて表彰状並びに感謝状贈呈が行われ、土地改良功労表彰（知

事表彰として個人3、団体2）や土地改良事業功績者表彰（本会会長表彰として8個人）、美しく豊かな農村づくり写真コンクールなどの表彰が行われたほか、創立50周年を記念して農業農村整備事業の推進と発展及び本会の発展に貢献した183の個人、団体に感謝状が贈られた。

また、記念講演として環境教育NPO法人「くすの木自然館」専務理事の浜本奈鼓さんを講師に迎え、「未来を支える底力 ～集落力～」の講演が行われた。浜本さんは、環境教育や都市づくり、農村環境、国際理解、食農教育に関する実践活動を行っており、農林水産省や環境省、鹿児島県の各種審議委員会の委員を務めている。講演では、自らが実践している環境教育や全国各地の事例を紹介しながら、①環境教育とは命の記憶を継いでいくこと、②緑豊かな農業農村



● あいさつ

秋田県土地改良事業団体連合会会長 高畑 進 氏



● 記念講演

環境教育NPO法人「くすの木自然館」専務理事 浜本奈鼓 さん



● 表彰状並びに感謝状 贈呈

秋田県土地功労表彰
秋田県土地改良事業功績者表彰
写真コンクール表彰
特別表彰（感謝状）

や地域資源を子どもたちに引き継いでいくことが重要になってくるなど、時折ユーモアを交えながら、農地・水・環境保全向上対策など新たな施策を活用しながら地域を元気にするためには「集落力」がポイントであると話し、これからの地域振興の参考になるメッセージを頂いたように感じました。

記念式典に引き続き、同会場で祝賀会が開催され、懐かしい顔ぶれや昔談義に話しがはずみ、和やかなムードで祝宴が行われた。

なお、土地改良事業関係の被表彰者及び感謝状贈呈の内訳は次のとおり。(敬称略)

◆土地改良功勞表彰(知事表彰)

◇鈴木順平(八郎瀧西部干拓地区土地改良区理事長) ◇柴田吉郎(平鹿町土地改良区事務局長) ◇高橋英夫(秋田県雄勝町土地改良区事務局長) ◇秋田県田沢疏水土地改良区(高貝久遠理事長) ◇秋田県南旭川水系土地改良区(藤井弘道理事長)

◆土地改良事業功績者表彰(会長表彰)

◇虻川久美(大館市南土地改良区副理事長) ◇

菅野洋(雄和土地改良区理事長) ◇嵯峨峰芳(秋田市農林部長) ◇齋藤實(にかほ市土地改良区管理責任者) ◇信田勇一(秋田県仙北平野土地改良区総括監事) ◇細川俊雄(仙北市黒倉堰土地改良区理事長) ◇高橋トシ子(秋田県仙北平野東部土地改良区事務長) ◇大坂久逸(秋田県南旭川水系土地改良区理事)

◆感謝状贈呈

農業農村整備事業の推進と発展及び本会の発展に貢献した個人・団体(183): 詳細別掲
 ◇土地改良区の理事長(19名) ◇土地改良区の職員(43名) ◇市町村の職員(13名) ◇秋田県土地改良事業団体職員会会長経験者(3名) ◇農業農村整備事業の推進と発展に貢献した団体(4団体) ◇本会の元役員及び現役員(14名) ◇本会の元囑託職員(2名) ◇県から派遣された元職員及び現職員(14名) ◇本会創立以来の功績者(3名) ◇本会の元職員及び現職員(41名) ◇本会の職員(22名) ◇本会の運営に対して功績が大きかった団体(4団体) ◇本会に対して貢献された方(1名)



●来賓祝辞

秋田県副知事 佐藤 文一 氏



●乾杯

秋田県議会副議長 安藤 豊 氏



●来賓祝辞

東北農政局次長 森 多可志 氏



●祝賀会

創立50周年記念式典

式 辞

会長 高 畑 進



本日の本会創立50周年記念式典に、ご来賓をはじめ関係皆様並びに会員皆様には、何かとご多用の中ご臨席賜り誠に有り難うございます。厚くお礼申し上げます。

本会は、昭和2年に設立された秋田県耕地協会の前身とし、昭和24年の土地改良法の制定に伴い社団法人秋田県土地改良協会に発展改組した後、昭和32年土地改良法の改正を受け、協会を解散し、翌33年9月20日に県内283団体による創立総会を開催し、同年11月11日に農林大臣の認可を受け今日に至っております。

この半世紀における農業情勢は、創立時の米の大増産の時代から、やがて米過剰による生産調整と他作物への転作の時代となり、更に昨今の改革の時代へと変貌の歴史を刻んできましたが、この間、土台となる生産基盤の整備と農村の生活環境の向上整備を担ってきた農業農村整備事業は、長期計画をはじめ各般に亘る施策の展開を通じ大きな役割を果たしてきましたし、本会もその推進に、独自の支援策を加えながら及ばずながらもお手伝いできましたことは、ひとえに国・県ご当局をはじめ県選出国會議員並びに県議會議員の皆様、そして会員皆様のご支援ご協力と、歴代役職員各位の英知とご努力の賜と深く感謝申し上げます。

お陰様で本県の農業基盤は格段に整備され、穀倉地帯に相応しい大規模なほ場が広がり、用排水路や農道の整備と相まって大型農業機械による近代農業の実現をみたほか、快適な生活環境整備も進められてきております。

こうした中、現下の農業農村を巡る情勢は、国際化の進展とともに、WTOにみられる急速な貿易自由化や地球温暖化への対応が求められているほか、世界の食料事情は、人口の急増や発展途上国などによる旺盛な食料需要、更にバイオ燃料への転換等により益々不足の状態が予測され、深刻な水不足とともに看過できない大きな問題として横たわっております。

このため食料の自給率が40%に満たない我が国としては、いかにして自給率の向上と食の安全・安心を高めていくべきか一層の工夫と努力が必要であります。中でも耕作放棄地など遊休農地の活用と、老朽化の時代を迎えた水利施設をはじめ生産基盤施設の適切な補修、更新に努めていかなければならないと存じます。

申しあげるまでもなく、農業・農村は、かねてより国民にとって欠くことのできない食料の安定供給のほか、水資源の涵養、自然環境の保全、文化の伝承など所謂多面的機能の発揮を通じ、国民生活を支える重要な役割を担ってきており、さらに、農地や農業用水は、本来の食料生産を支える役割のほか、地域共有の貴重な資産として、循環型社会の構築や、人と自然、都市と農村の共存などの新たな役割が期待されております。

私達は、今後こうした幅広い分野にわたる役割を担っていくわけですが、これまでの半世紀にわたる実績・経験を糧に、創立50周年と全国土地改良大会の開催を新たな出発点として、本県農業の偉大な先駆者石川理紀之助翁の理念を体し、先の全国土地改良大会のテーマとして掲げました「**あすを拓く大地、きらめく疏水、たくまじき郷**」秋田の実現を目指して、会員並びに関係機関の皆様方との連携を図りながら、更なる努力をしてまいり所存であります。

なお、本会創立50周年を記念し、本会並びに会員皆様の事業の歩みを振り返り、多くの先人皆様方の偉業を今一度思い起こすとともに、これからの前進の糧とするため記念誌を刊行いたしましたので、関係皆様のご高覧を頂き、本会に対する相変わらぬご理解ご支援をお願い申し上げ、開会のご挨拶といたします。